

2 de Diciembre de 1937

El "Agenzia L'Espresso"

Año XIV No 763 (4)

伊太利政府突如満洲國承認

□・新京に公使館新設を發表

(羅馬廿九日) 伊太利政府は二十九日新京に伊太利公使館正新設する旨を発表した。羅馬廿九日 伊太利外務省は廿九日午後二時張満洲國總理宛左の旨打電した旨を発表した。

「二国間の清淨國交開始に当りアシスト國家及び国民の鄭重ある扶持を送つて満洲國の將來を祝福す」

伊政府の満洲國承認は

聯盟などに対する一大警鐘

帝國政府外務当局談て見解發表

(東京三十日) 伊太利國の満洲國承認に関する帝國政府は廿九日午後十二時外務当局談の形式で左の如く見解を發表した。

「清伊兩國間の正式外交關係を確立する所と云へやう、かの開始は當に兩國の親善關係促進の見地より望ましいばかりでなく、どう有する政治的意義は更に大であるとの如きがあり現実の事態を無視する傾向あり聯盟などに対する一大警鐘

結して友交關係を深めつゝある連邦連合始め諸邦連合相應に之を適切なる措置に出でるのみと觀測されてゐる。

(東京三十日) 伊太利の満洲國承認は歐米各國の満洲國承認する否認的態度に対する爆弾的快挙であつて、これ古契機として既に満洲通商協定を締結は急速に進展、愈々近く羅馬

張満洲國總理聲明

(南京廿九日) 張満洲國總理声明「満洲國政府及公國民は伊太利の満洲國承認に対し熱誠ある謝意を表する。近時共産革命の陰謀世界諸方面に猖獗を極むる際、伊太利が防共の大健闘中より我が満洲國を率先承認せらるはその國際正義上の意義極めて重大で、特に伊太利が聯盟並に九ヶ國條約加盟

(倫敦廿九日) 伊太利の満洲國承認は對し倫敦の消息通は政本各國の極東政策に相當影響する是否出未だと見做し殊に美國の極東政策反省の声が起る恐れと予想してゐるやうである。

(東京三十日) 併へられる在上海の支那政府系四銀行の移転はつき某方面への情報に依れば中央銀行は漢口へ既に移転するところカムフラージュ試みてはゐるが事實は香港はそ

の本據を移したものと見られ

宏は香港は輸送せし廿七日に

上海に到着されると、中國

銀行の香港移転のためには支

那の金融上の中心吳は上海を

完全に离れて香港に移つたところ

観測が行はれてゐる。

世界防共陣線化に寄與満伊國交開始を強調大歓迎

1. 総額二十八億六千八百万円

(東京三十日) 銀後施設費増加四十万円、軍人接

讀書費充実費一千万

元は内務省は今議会に率

明に對し社運官民は世界の防

禦隊を一段と強化し新平和機

構確立は寄与するものとして

大歓迎してゐる。

詔令提出すること、あつた。

（東京三十日）長期戰対策の明

年賃一概予算案（原母軍事費、

特別会計を除く）は二十九日深

後、復員対策としての職業

紹介、國營事業及び傷病兵保

護案を提出すること、あつた。

（東京三十日）銀後施

設費たる軍事扶助費

增加四十万円、軍人接

讀書費充実費一千万

元は内務省は今議会に率

明に對し社運官民は世界の防

禦隊を一段と強化し新平和機

構確立は寄与するものとして

大歓迎してゐる。

詔令提出すること、あつた。

（東京三十日）長期戰対策の明

年賃一概予算案（原母軍事費、

特別会計を除く）は二十九日深

後、復員対策としての職業

紹介、國營事業及び傷病兵保

護案を提出すること、あつた。

（東京三十日）銀後施

設費たる軍事扶助費

增加四十万円、軍人接

讀書費充実費一千万

元は内務省は今議会に率

明に對し社運官民は世界の防

禦隊を一段と強化し新平和機

構確立は寄与するものとして

大歓迎してゐる。

詔令提出すること、あつた。

（東京三十日）長期戰対策の明

年賃一概予算案（原母軍事費、

特別会計を除く）は二十九日深

後、復員対策としての職業

紹介、國營事業及び傷病兵保

護案を提出すること、あつた。

（東京三十日）長期戰対策の明

年賃一概予算案（原母軍事費、

特別会計を除く）は二十九日深

昭和二十年二月二日

民間航空の大飛躍を目指す

逓信省の大計画成る

航空機製造能力拡充・飛行士大量養成

全國各地に飛行場増設

有事の際は軍事上使用

(東京三十日) 民間航空の新手たる飛躍を図ざす逓信省の大計画の趣旨が承認され、逓信当局が企団する民間航空の海外進出、航空機製造能力の向上拡充、飛行乗員の大量養成等の基礎が出来、数年ぶらすことにして民間航空を世界水準以上に到達せしむる一大目標が出来上つた。

國立中央航空局を設立し

明年から三ヶ月年計画一億五千

万円で東京近郊に百万坪の土地を求めて航空機の製造能力を

世界雄飛を目指す大機関を設

ける。然して明年度予算を五

十万円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

大委員会を設け、現在の陸海

軍、文部省等の航空施設以上を

そなへしめんとしてある。

航空乗員の養成はこれと中央

地方に分けて将来一ヶ月を

と養成するが、地方は主として

新聯合艦隊司令長官談
吉田善吉中將

新聯合艦隊司令長官
吉田善吉中將
主ふるところ通り

附近に三十万坪の飛行場を設け十三年度百八十万円、十四年度九十四万五千円を投じ、十五年度から一等操縦士五十名

機関士十五名を養成し一方

地方養成は明年度予算では八

十万円で奥羽、中部、近畿、関西、九州の五ヶ所地方県

協力を得てそれべく三十万坪

の飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

更に十四年度には二百五十万

円、十五年度同額を支出して

新築される亞國文化協会
一日白定歎式挙行さる

横濱、櫻葉、岡部諸
氏が顔が見へた。
あは亞國文化協会々
館落成後は同建物内

教育飛行場を設け同様一ヶ所
五十名を養成するが、
十萬円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

際は直ちに軍事上に使用さ

れることは五つてゐる。然し

て明年度の養成人員は既定と

そなへしめんとしてある。

新規と合せて二千六十万円

以此て昭和二年一等百名、

二等四百名計五百名を養成す

るに決した。

ソシアル・アル・ヘンティー」
地にあり亞國文化協会(公社)、
地十五郎、浦大義、港部司令官
少將下村正助、補馬公要

長中將古賀峰一、補海軍大學校

長中將日比野正治、補舞鶴要

港部司令官、中將出光清平、

補鎮海要港部司令官、中將有

助十五郎、浦大義、港部司令官

少將下村正助、補馬公要

ハ飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

更に十四年度には二百五十万

円、十五年度同額を支出して

新築される亞國文化協会
一日白定歎式挙行さる

横濱、櫻葉、岡部諸

氏が顔が見へた。

あは亞國文化協会々
館落成後は同建物内

教育飛行場を設け同様一ヶ所

五十名を養成するが、
十萬円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

際は直ちに軍事上に使用さ

れることは五つてゐる。然し

て明年度の養成人員は既定と

そなへしめんとしてある。

新規と合せて二千六十万円

以此て昭和二年一等百名、

二等四百名計五百名を養成す

るに決した。

ソシアル・アル・ヘンティー

地にあり亞國文化協会(公社)、
地十五郎、浦大義、港部司令官

少將下村正助、補馬公要

ハ飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

更に十四年度には二百五十万

円、十五年度同額を支出して

新築される亞國文化協会
一日白定歎式挙行さる

横濱、櫻葉、岡部諸

氏が顔が見へた。

あは亞國文化協会々
館落成後は同建物内

教育飛行場を設け同様一ヶ所

五十名を養成するが、
十萬円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

際は直ちに軍事上に使用さ

れることは五つてゐる。然し

て明年度の養成人員は既定と

そなへしめんとしてある。

新規と合せて二千六十万円

以此て昭和二年一等百名、

二等四百名計五百名を養成す

るに決した。

ソシアル・アル・ヘンティー

地にあり亞國文化協会(公社)、
地十五郎、浦大義、港部司令官

少將下村正助、補馬公要

ハ飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

更に十四年度には二百五十万

円、十五年度同額を支出して

新築される亞國文化協会
一日白定歎式挙行さる

横濱、櫻葉、岡部諸

氏が顔が見へた。

あは亞國文化協会々
館落成後は同建物内

教育飛行場を設け同様一ヶ所

五十名を養成するが、
十萬円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

際は直ちに軍事上に使用さ

れることは五つてゐる。然し

て明年度の養成人員は既定と

そなへしめんとしてある。

新規と合せて二千六十万円

以此て昭和二年一等百名、

二等四百名計五百名を養成す

るに決した。

ソシアル・アル・ヘンティー

地にあり亞國文化協会(公社)、
地十五郎、浦大義、港部司令官

少將下村正助、補馬公要

ハ飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

更に十四年度には二百五十万

円、十五年度同額を支出して

新築される亞國文化協会
一日白定歎式挙行さる

横濱、櫻葉、岡部諸

氏が顔が見へた。

あは亞國文化協会々
館落成後は同建物内

教育飛行場を設け同様一ヶ所

五十名を養成するが、
十萬円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

際は直ちに軍事上に使用さ

れることは五つてゐる。然し

て明年度の養成人員は既定と

そなへしめんとしてある。

新規と合せて二千六十万円

以此て昭和二年一等百名、

二等四百名計五百名を養成す

るに決した。

ソシアル・アル・ヘンティー

地にあり亞國文化協会(公社)、
地十五郎、浦大義、港部司令官

少將下村正助、補馬公要

ハ飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

更に十四年度には二百五十万

円、十五年度同額を支出して

新築される亞國文化協会
一日白定歎式挙行さる

横濱、櫻葉、岡部諸

氏が顔が見へた。

あは亞國文化協会々
館落成後は同建物内

教育飛行場を設け同様一ヶ所

五十名を養成するが、
十萬円はその根幹を作るため

陸海民間の専門家を囲繩する

際は直ちに軍事上に使用さ

れることは五つてゐる。然し

て明年度の養成人員は既定と

そなへしめんとしてある。

新規と合せて二千六十万円

以此て昭和二年一等百名、

二等四百名計五百名を養成す

るに決した。

ソシアル・アル・ヘンティー

地にあり亞國文化協会(公社)、
地十五郎、浦大義、港部司令官

少將下村正助、補馬公要

ハ飛行場を造り、一ヶ所五十

名の二等操縦士を養成するが

